



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2022.2.7

天国と地獄の長い箸

2月2日の全校朝会（オンライン）で次のような話をしました。

今日は「天国と地獄の長い箸」のお話をします。「地獄」といえば、針の山があったり鬼がいたりというイメージですが、ある人が言うには、地獄はそんなことはなくて、きれいな景色で、美しい花も咲いているところだそうです。そして、食事時になればおいしそうな食事が出てくるそうですが、ただ一つ違うのは、そこでは、このような長い（約 2mの）お箸を使って食事をしなければならぬというきまりがあるそうです。地獄にいる人はおなかがすいていますから、奪い合うように料理をお箸でつかみませんが、このように口元に持っていくことはできず、食べることができません。目の前においしそうな食事が山のようにあるのに食べられないのです。地獄の人は、つねに、お腹をすかして飢えているので、人を責めたり八つ当たりしたりして争いごと絶えず、けんかをしたり悪口を言い合ったりしています。周りの美しい景色を楽しむ余裕もありません。まさに地獄ですね。

一方、天国はどうでしょうか。天国も同じようにきれいなところですよ。食事も同じように出ます。お箸のきまりも同じです。ですが、天国の人は、みんなおいしい料理を満足いく量、食べることができています。だから、お互い穏やかに過ごして、周りの景色も楽しんでます。天国の人はどうやっているかわかりますか。

そうです、天国の人はお互いにこのように相手に食べさせてあげることで食事をする事ができています。

このお話からは、いくつもの学ぶべきところがあると思いますが二つお話ししたいと思います。

一つは、自分の事だけを考えていてはだめだということです。自分の事ばかり優先している人がいると、そこは地獄になってしまいます。相手のことを考えて思いやりをもって行動することで、そこは天国になるということです。ここで大事なことは、まず自分から人のために行うということです。

「それをまず私に食べさせて」ではなかなか人はしてくれませんね。みんながそのような考えでは、地獄の始まりです。まず、私から人のために行うことが大事です。「情けは人の為ならず」という言葉もあります。誰かに親切にすることは、相手のためになることですが、それは巡り巡って自分のところに返ってくるという意味です。ですから、人のためにしてあげるという考えではなくて、させてもらっているという気持ちで、まず自分から人のために行うことが大事だということです。大谷翔平選手がゴミ拾いを日頃から実践しているというのはよく知られている話です。ゴミを拾う行為は労力と言えば大変で、時に面倒くさいかもしれませんが、大谷選手は世界中から尊敬されて、それ以上のものを手に入れることができます。

もう一つは、天国も地獄も条件は同じでした。そこを天国にするのも地獄にするのも、その人次第ということかもしれません。「なんで僕ばかり」とか「なんでせないかんの」とばかり考えているのは地獄の入り口ですね。今、苦しかったり、自分の気持ちをなぜわかってくれないんだろうと感じたりすることはありますが、「苦しいことを頑張ってやり遂げれば自分は成長できる」とか、「もしかしたら相手はこんな風に考えているのではないだろうか」と考えることで結果は変わってくるかもしれません。

皆さんの学級や、部活動、バスやタクシーの中はどうですか。わくわくやわくわくのスポーツの時はどうでしょうか。電車に乗ったり、スーパーに行ったりしたときはどうでしょうか。将来、学校を卒業した先のいろいろな集まりでも同じように考えてみるといいですね。